

## 事業所アンケート集計結果

### 1. 調査目的

新温泉町エココンパクトタウン構想の策定にあたり、住民の意向を計画に反映させると共に、再生可能エネルギーの周知と構想への参加意欲の高揚を図ることを目的にアンケートを実施した。

### 2. 調査概要

#### ■調査内容

- エネルギー使用状況、新エネルギー設備設置状況や省エネルギーに関する取り組み状況を把握。
- 町が取り組むべき施策等の意向を把握する。
- 環境と経済のプライオリティやどれくらいの負担が許容できるかを把握する。
- 今後のまちづくりへの参加意向を把握する。
- 本構想策定に向けた町の取り組みや、エネルギー面での地域資源の活用手法等、普及啓発の機会とする。

#### ■調査対象

本町にある事業所のうち 100 事業所へ郵送により、紙媒体による質問票を、用語解説等の普及啓発資料を添え配布を行った。また同様に郵送により回収を行った。

#### ■調査期間

平成 23 年 9 月 7 日～平成 23 年 9 月 22 日

#### ■回収状況

配布数（郵送数）	100 件
回収数	60 件
回収率	60%
有効回答数	60 件
有効回答率	100%

## ■調査項目

「回答者属性」「エネルギーの使用状況」「経済負担について」「町の取組方針およびまちづくりへの参加意向について」「特徴的施策」について、計 17 項目の調査を行った。

表 1 事業所アンケートの概要

調査項目		目的
1. 回答者属性 (1 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所の業種</li> <li>※業種については、統計の産業分類ではなく、「温泉業」「水産業」等、分かるように設問を設定</li> <li>・ 事業所の形態</li> <li>・ 規模</li> <li>・ 年数</li> <li>・ 地域</li> </ul>	属性の基本的な項目を把握
2. エネルギーの使用状況 (2 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー利用状況の把握の有無</li> <li>○設備面での設置状況、今後の意向</li> <li>・ 太陽光発電、太陽熱温水器、低公害車等（電気自動車等）の設置および意向状況</li> <li>・ 効果、課題</li> <li>○省エネルギー行動における状況および意向</li> </ul>	過去、現在、今後の暮らしにおけるエネルギー利用状況や省エネルギー行動に関する状況・意向を把握
3. 経済負担について (0.5 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 ヶ月間の許容できる金額</li> <li>・ どの部分のエネルギーコストを削減したいか。（ガソリン、電気（暖房、冷房）、ガス、薪等）</li> <li>・ 出資等を行った場合の参加意向・金額</li> </ul>	コスト負担等や経済面から見た意向を把握
4. 町の取組方針およびまちづくりへの参加意向について（1 ページ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新温泉町がとるべき姿勢</li> <li>・ 新温泉町が取り組むべき新エネルギー</li> <li>・ 新温泉町が注力すべき施策 等</li> </ul>	町が取り組むべき施策意向を把握
5. 自由意見 (0.5 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新温泉町のまちづくりについて</li> </ul>	多様な意見を把握
普及啓発資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域資源を活用した暮らしのイメージ (太陽光、熱、風力等の紹介)</li> <li>・ 町の取組み 等</li> </ul>	普及啓発

《A4 版 8 ページ、質問項目数 17 問》

## ■調査結果概要

### ○回答者属性について

- 築年数の古い事業所で、従業員数が6～20人の小規模なものが多い。

質問項目	結果概要
業種	建設業、卸売・小売業、サービス業の順に多く、これらで約4割。
事業所の形態	事務所、店舗の順に多く、これらで約7割。
事業所の規模	6～20人が最も多く、約5割。
事業所の築年数	30年以上が最も多く、約5割。
事業所の所在地域	浜坂北小学校区、温泉小学校区の順に多く、これらで約8割。

### ○エネルギー利用について

- 冷暖房に関しては電力を使用する物が多い。
- 給湯や厨房に関しては燃料を使用するものが多い。
- 主に宿泊業においては一部温泉によって賄われている。

質問項目	結果概要
冷房	エアコンを利用している場合が約10割、扇風機を利用している場合が約4割。
暖房	エアコンを利用している場合が約8割、石油ストーブ・ファンヒーターを利用している場合が約6割。 温泉熱を利用している場合は2件（宿泊業）。
給湯	ガス給湯器を利用している場合が約6割。 温泉熱を利用している場合は4件（宿泊業3件、サービス業1件）。 また、農協では2年前まで温泉熱を利用していた。
厨房	ガスコンロを利用している場合が約7割。 温泉熱を利用している場合は2件（宿泊業）。
消融雪	地下水を利用している場合が約2割。 温泉熱を利用している場合は3件（宿泊業2件、医療・福祉1件）。
温泉配湯	温泉配湯を受けている場合は約3割。 そのうち、水を混ぜる等して温度を下げて使用されている場合が約7割であり、40～50℃まで下げる場合が多い。
光熱費	事業経費の1～3%であることが多く、金額は50～1000万円であることが多い。

## ○省エネルギーの取組について

- 特に冷暖房に関することに熱心に取り組まれている事業所が多い。
- その他の項目についても今後取り組みたいという意見が多く、省エネルギーへの関心が高い。

質問項目	結果概要
冷房や暖房に関する こと	冷暖房の設定温度を控えめにしている場合が約 9 割。 すだれやカーテンにより日射しを遮るようにしている場合が約 7 割。 風通しを良くしている場合が約 7 割。 省エネルギー性能の高い空調設備の導入については約 4 割が今後取り組みたいと答えた。
移動に関する こと	エコカーや軽自動車等燃費性能の良い自動車を使用している場合が約 3 割、今後取り組みたい場合が約 3 割。 エコドライブを励行している場合が約 3 割、今後取り組みたい場合が約 3 割。
その他の事業活動に 関すること	サマータイム制等で照明を出来る限り使わないようにしている場合が約 4 割。 省エネルギー性能の高い照明を使用することや、省エネルギー性能の高い OA 機器を導入することについては、今後取り組みたい場合が約 5 割。
省エネルギーの取組 への自己評価	出来るだけ取り組んでいると評価している場合が約 6 割。

## ○再生可能エネルギーについて

- 太陽光発電への関心が高い。
- 太陽熱利用や燃料電池など、熱需要を賄うための再生可能エネルギーへの関心も高い。
- 導入の理由、導入できない理由ともに、コスト面に関する理由が挙げられている。
- 再生可能エネルギー導入に伴う不便も許容できるという意見が多いが、労力を必要とするものについては許容されにくい。

質問項目	結果概要
認知度について	太陽光発電、太陽熱利用、風力発電については、よく知っているという回答した場合が約 5 割。
関心について	最も関心がある再生可能エネルギーは、太陽光発電、太陽熱利用、温泉熱利用の順で多く、これらで約 3 割。
今後の導入について	太陽光発電の導入を検討中：6 件、興味はあるが導入できない：約 4 割。 太陽熱利用の導入を検討中：2 件、興味はあるが導入できない：約 3 割。 燃料電池の導入を検討中：3 件、興味はあるが導入できない：約 1 割。 その他の再生可能エネルギーについては、導入を検討中：0～1 件、興味はあるが導入できない：約 1 割。
導入の理由	光熱費・燃料費を削減したいから：約 5 割。 地球温暖化の防止に貢献できるから：約 3 割。
導入できない理由	コスト面での導入効果が不明であるから：約 4 割。
許容できる不便	省エネルギーにより室内温度が高くなる（低くなる）ことは許容できるという回答が多く、それぞれ約 2 割。 逆に、薪や炭等の燃料確保のために労力がかかることについては許容できるという回答が少なく、約 3%。

## ○経済的負担について

- 夏の電気代を減らしたいという回答が多い。年間のピークの電力使用量を抑えることで、電気料金の単価を下げたいという意向が伺える。
- 環境のための経済的負担については、多少であれば許容できるという意見が多い。

質問項目	結果概要
光熱費のうち減らしたい部分	夏の電気代を減らしたいという回答が約 6 割。
許容できる負担について	毎月光熱費の 1%程度は増加してもよいという回答が約 4 割。

## ○新温泉町の今度の取組について

- コスト面に関する補助や情報を求める意見が多い。
- まずは公共施設への導入を望む意見も多い。
- 環境への貢献度について知ること、CSR への配慮も窺える。

質問項目	結果概要
町として力を入れるべき施策	再生可能エネルギー等の導入に際しての助成制度の充実に力を入れるべきという回答が最も多く、約 7 割。 公共施設への再生可能エネルギー等や省エネルギー設備の導入をすべきという回答が約 4 割。
再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する際に欲しい情報	助成制度の内容とコスト面での導入効果を知りたいという回答がそれぞれ約 6 割。 設置に関する費用を知りたいという回答が約 5 割。 設備の仕組みを知りたいという回答が約 3 割。 環境への貢献度を知りたいという回答が約 2 割。

## ○企業の社会的責任（CSR）に関する取組について

- 資金的支援より、人的支援による CSR 活動を行いたいという意見が多い。

質問項目	結果概要
まちづくりへの参加意向	地域活動等へ参加することでまちづくりに参加したいという回答が約 5 割。 社員が地域活動に参加することを奨励したいという回答が約 3 割。

### 3. 調査結果

#### A. 回答者属性

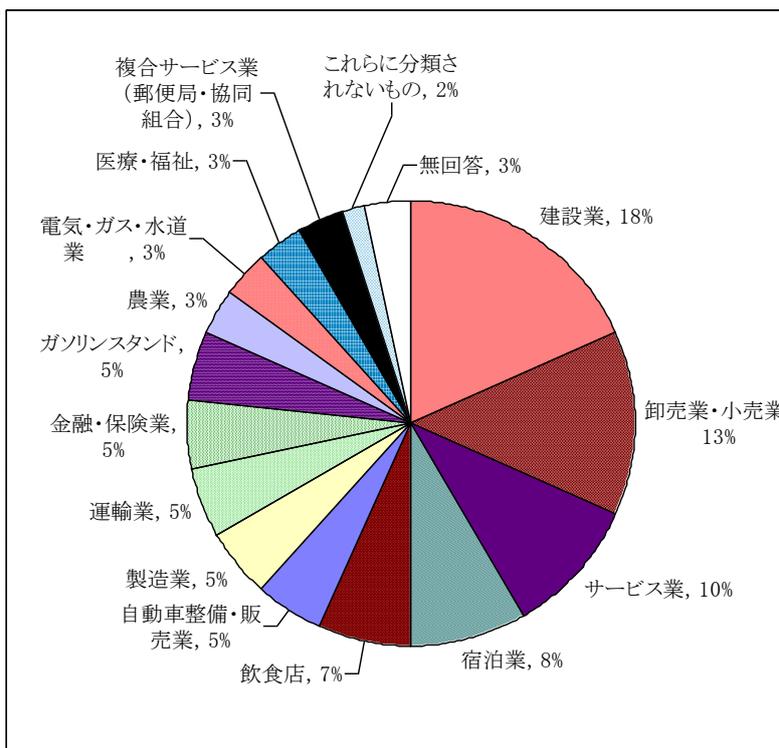
問①. 以下の項目それぞれについてあてはまる番号を1つずつ選び、○を付けてください。

##### 1) 事業所の業種

建設業が最も多く、次いで卸売・小売業、サービス業の順に多い。

図 1 事業所の業種

選択項目	件数	構成比
建設業	11	18%
卸売業・小売業	8	13%
サービス業	6	10%
宿泊業	5	8%
飲食店	4	7%
自動車整備・販売業	3	5%
製造業	3	5%
運輸業	3	5%
金融・保険業	3	5%
ガソリンスタンド	3	5%
農業	2	3%
電気・ガス・水道業	2	3%
医療・福祉	2	3%
複合サービス業(郵便局・協同組合)	2	3%
これらに分類されないもの	1	2%
林業・狩猟業	0	0%
漁業水産養殖業	0	0%
情報通信業	0	0%
教育・学習支援業	0	0%
無回答	2	3%
合計	60	100%



2) 事業所の形態

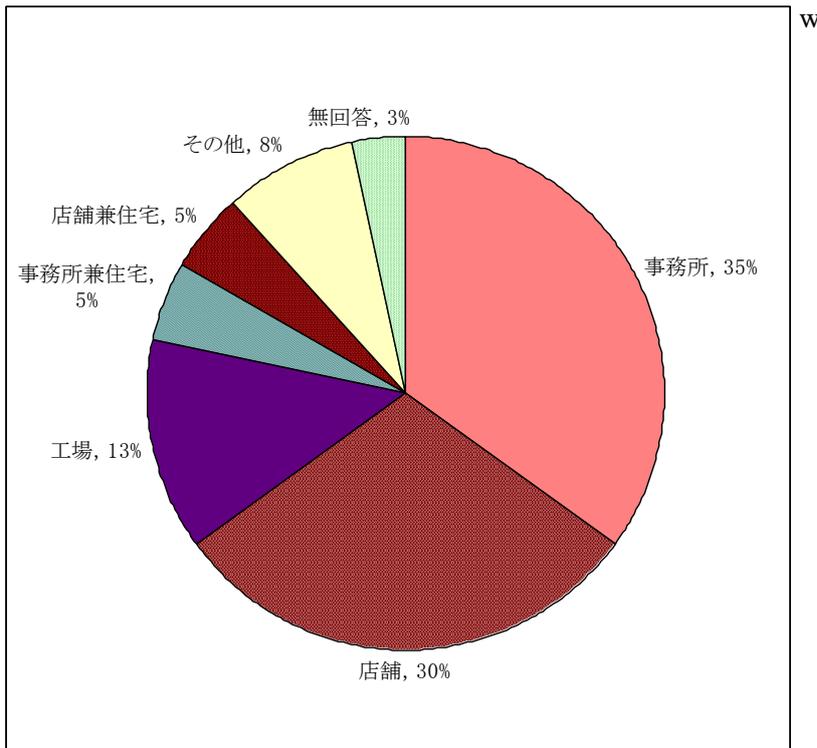
事務所が最も多く、次いで店舗、工場の順に多い。

図 2 事業所の形態

選択項目	件数	構成比
事務所	21	35%
店舗	18	30%
工場	8	13%
事務所兼住宅	3	5%
店舗兼住宅	3	5%
工場兼住宅	0	0%
その他	5	8%
無回答	2	3%
合計	60	100%

【その他の回答】

- ・ 旅館 3
- ・ 病院 1

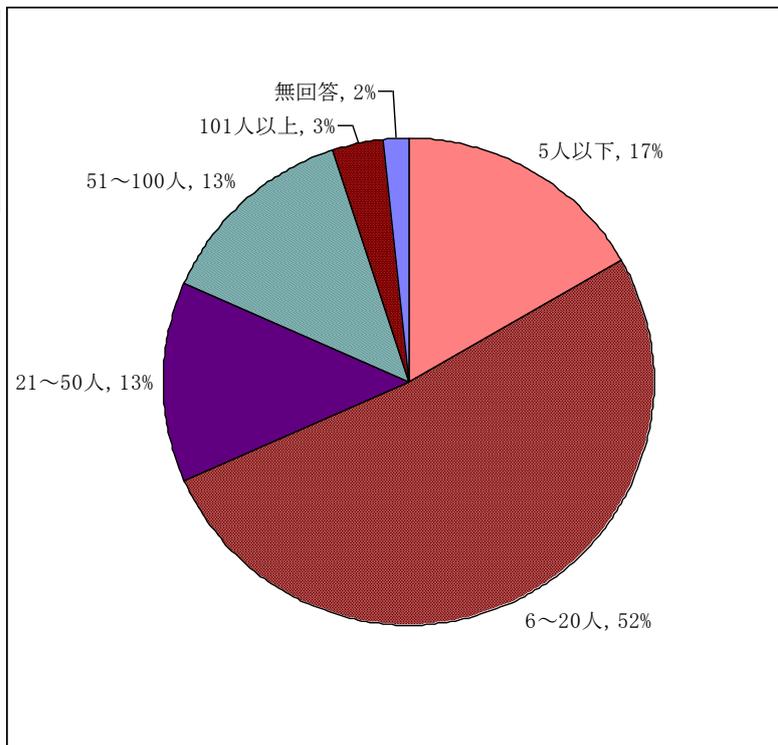


3) 事業所の規模

6～20人が最も多い。

図 3 事業所の規模

選択項目	件数	構成比
5人以下	10	17%
6～20人	31	52%
21～50人	8	13%
51～100人	8	13%
101人以上	2	3%
無回答	1	2%
合計	60	100%

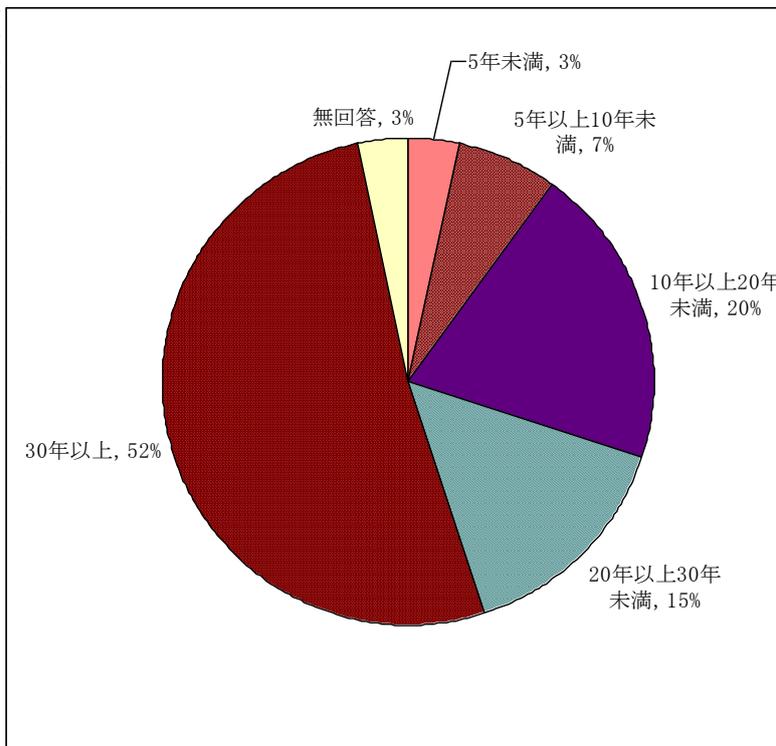


4) 事業所の築年数

30年以上が最も多く、次いで10年以上20年未満が多い。

図 4 事業所の築年数

選択項目	件数	構成比
5年未満	2	3%
5年以上10年未満	4	7%
10年以上20年未満	12	20%
20年以上30年未満	9	15%
30年以上	31	52%
わからない	0	0%
無回答	2	3%
合計	60	100%

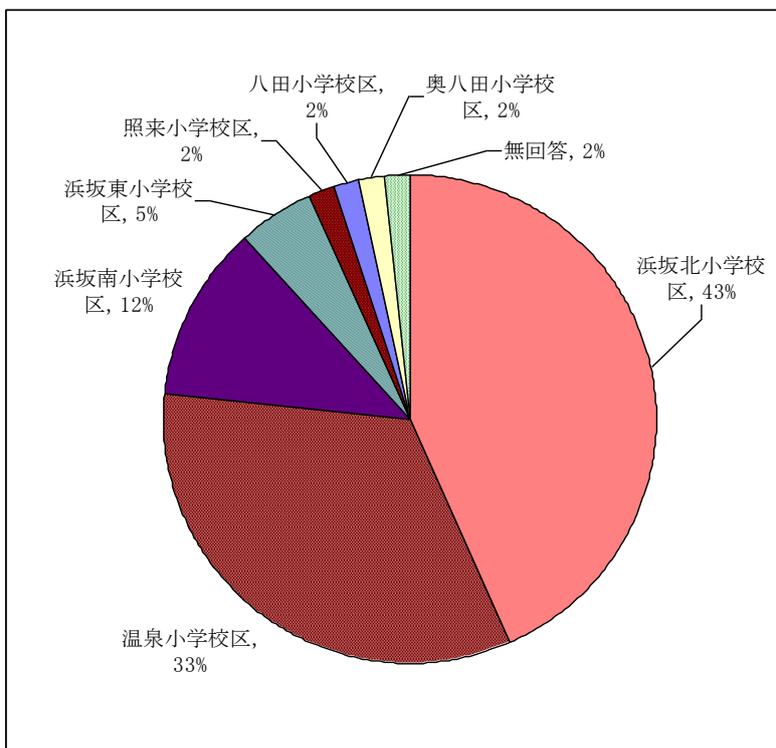


5) 事業所の所在地域

浜坂北小学校区が最も多く、次いで温泉小学校区が多い。

図 5 事業所の所在地域

選択項目	件数	構成比
浜坂北小学校区	26	43%
温泉小学校区	20	33%
浜坂南小学校区	7	12%
浜坂東小学校区	3	5%
照来小学校区	1	2%
八田小学校区	1	2%
奥八田小学校区	1	2%
浜坂西小学校区	0	0%
無回答	1	2%
合計	60	100%



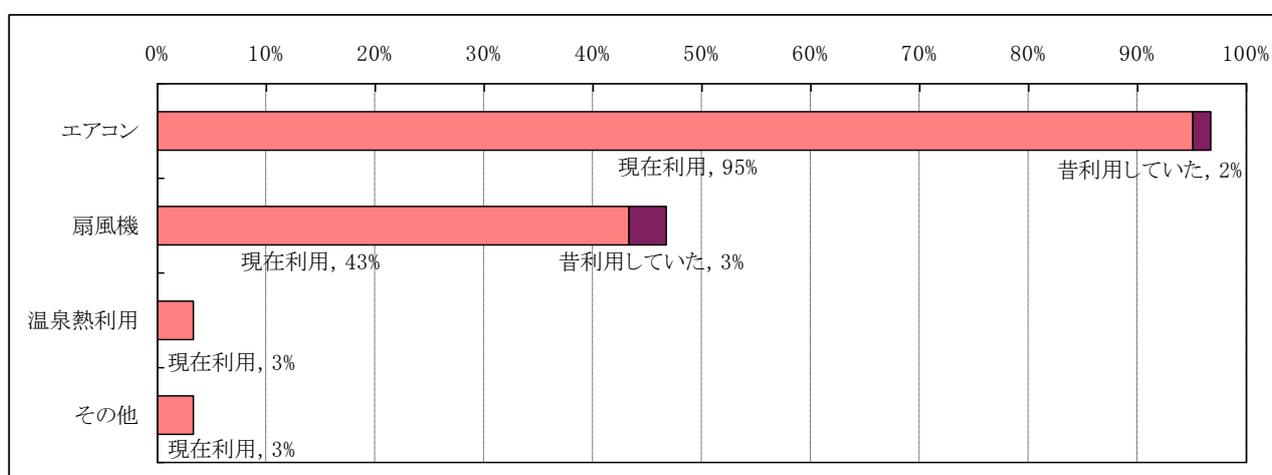
## B. エネルギー利用について

問②. 昔および現在の事業活動の中で、冷房や暖房等でのエネルギー利用状況についてそれぞれあてはまるものに○をつけてください。また、現在利用していないが昔利用していたものに○をつけ、何年前ごろまで利用していたか年数をご記入ください。

### 1) 冷房

「エアコン」を現在利用しているとの回答が95%と最も多い。次いで「扇風機」の利用が43%となっている。温泉熱利用は2件（宿泊業）であった。

図 6 冷房



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
エアコン	57	1	2	60
	95%	2%	3%	100%
扇風機	26	2	32	60
	43%	3%	53%	100%
温泉熱利用	2	0	58	60
	3%	0%	97%	100%
その他	2	0	58	60
	3%	0%	97%	100%

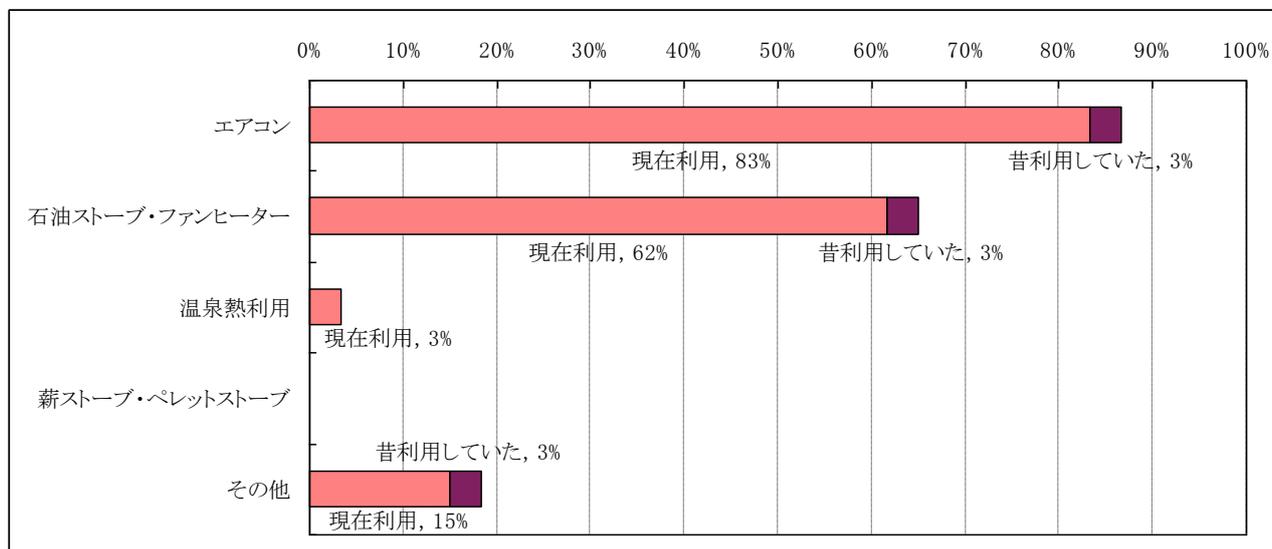
#### 【その他の冷房】

- ・冷水機 1
- ・ガスヒートポンプ 1

2) 暖房

「エアコン」を現在利用しているとの回答が83%と最も多く、次いで「石油ストーブ・ファンヒーター」が多い。「温泉熱利用」は2件（宿泊業）であった。薪ストーブとペレットストーブは利用しているという回答が無かった。

図 7 暖房



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
エアコン	50	2	8	60
	83%	3%	13%	100%
石油ストーブ・ファンヒーター	37	2	21	60
	62%	3%	35%	100%
温泉熱利用	2	0	58	60
	3%	0%	97%	100%
薪ストーブ・ペレットストーブ	0	0	60	60
	0%	0%	100%	100%
その他	9	2	49	60
	15%	3%	82%	100%

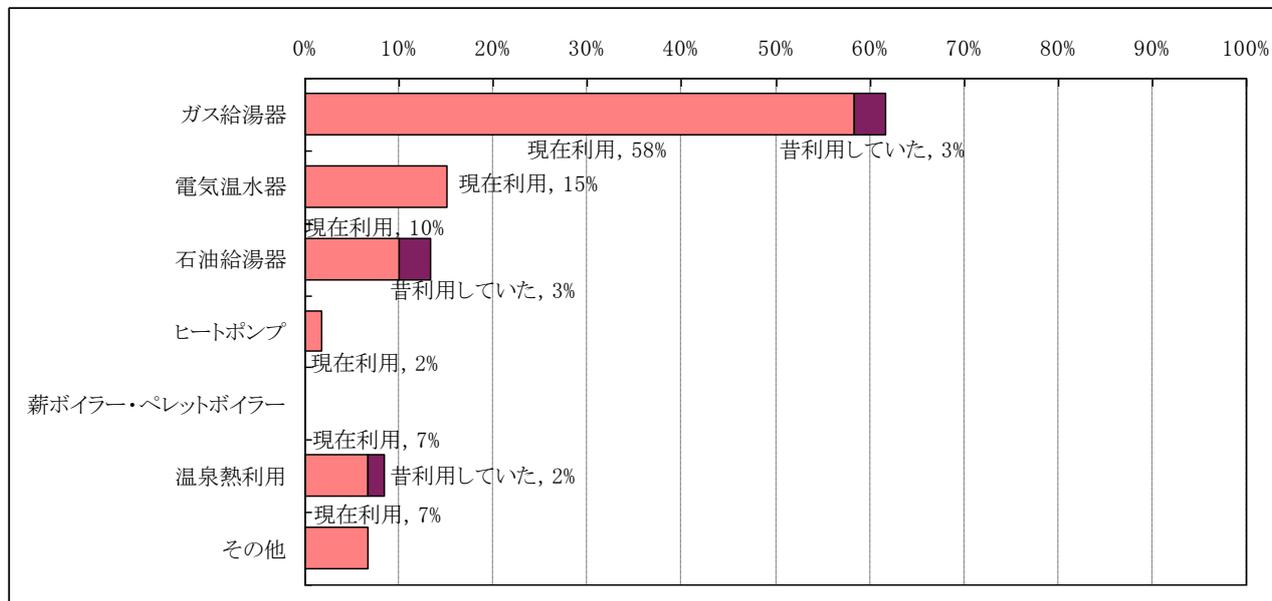
【その他の暖房】

- ・床暖房 2
- ・ガス温熱床暖房 1
- ・ホットカーペット 1
- ・ガスストーブ 1
- ・廃油ストーブ 1
- ・ガスヒートポンプ 1
- ・蓄熱機 1
- ・足温機 1
- ・石炭 1
- ・重油 1

3) 給湯

「ガス給湯器」を現在利用しているとの回答が 58%と最も多く、次いで「電気温水器」(15%)、「石油給湯器」(10%) の順となっている。「温泉熱利用」は 4 件 (うち宿泊業 3 件、サービス業 1 件) であった。また農協では 2 年前まで利用されていたという回答があった。

図 8 給湯



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
ガス給湯器	35	2	23	60
	58%	3%	38%	100%
電気温水器	9	0	51	60
	15%	0%	85%	100%
石油給湯器	6	2	52	60
	10%	3%	87%	100%
ヒートポンプ	1	0	59	60
	2%	0%	98%	100%
薪ボイラー・ペレットボイラー	0	0	60	60
	0%	0%	100%	100%
温泉熱利用	4	1	55	60
	7%	2%	92%	100%
その他	4	0	56	60
	7%	0%	93%	100%

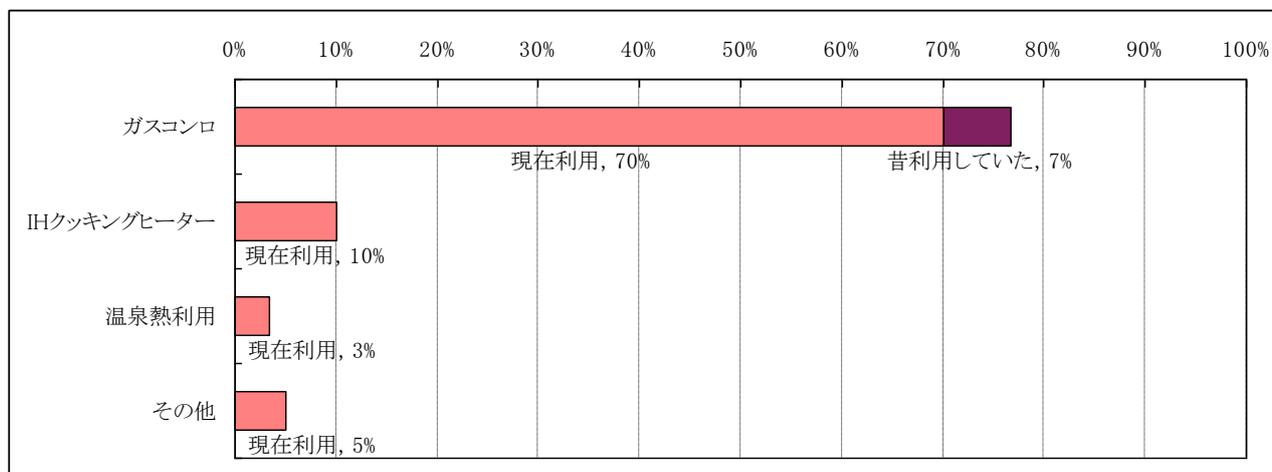
【その他の給湯】

- ・ガス温水機 1
- ・ガスエコウィル 1

## 4) 厨房

「ガスコンロ」を現在利用しているとの回答が70%と最も多く、次いで「IH キッキングヒーター」(10%)の順と成っている。温泉熱利用は2件(宿泊業)であった。

図 9 厨房



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
ガスコンロ	42	4	14	60
	70%	7%	23%	100%
IHクッキングヒーター	6	0	54	60
	10%	0%	90%	100%
温泉熱利用	2	0	58	60
	3%	0%	97%	100%
その他	3	0	57	60
	5%	0%	95%	100%

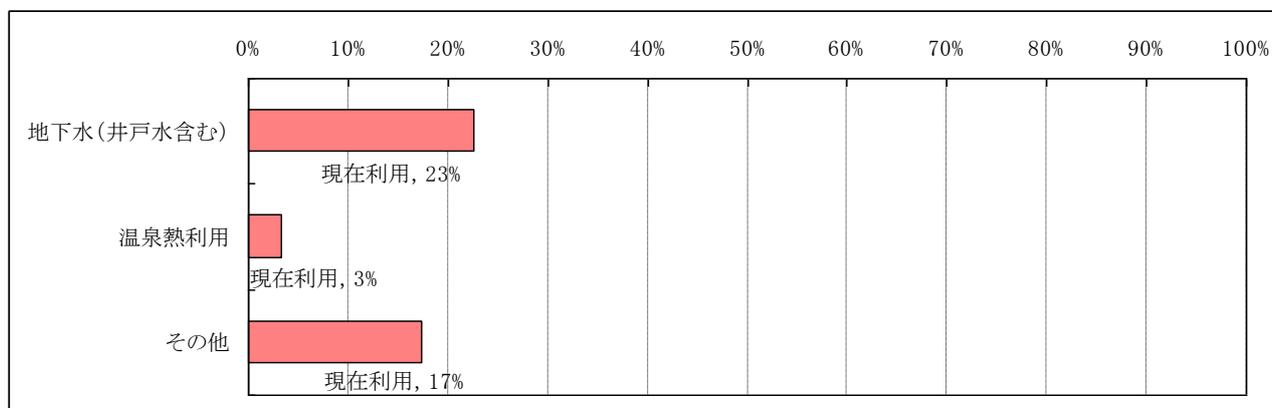
## 【その他の厨房】

- ・ポット 1
- ・電気クッキングヒーター 1

## 5) 消融雪

地下水（井戸水含む）を現在利用しているとの回答が 23%と最も多い。温泉熱利用は 3 件（宿泊業 2 件、医療・福祉 1 件）であった。

図 10 消融雪



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
地下水(井戸水含む)	14	0	48	62
	23%	0%	77%	100%
温泉熱利用	2	0	58	60
	3%	0%	97%	100%
その他	8	0	38	46
	17%	0%	83%	100%

## 【その他の消融雪】

- ・水 2
- ・水道水 2
- ・河川水 1
- ・ホイールローダー 1
- ・リースで機械を使用 1

問③. 特に、温泉湯を利用した様々な取り組みについてお聞きします。

(1) 貴事業所では、温泉からの配湯を受けていますか。( はい ・ いいえ )

(2) 温泉湯の利用方法について、**あてはまるものを1つ**選び、○を付けて下さい。

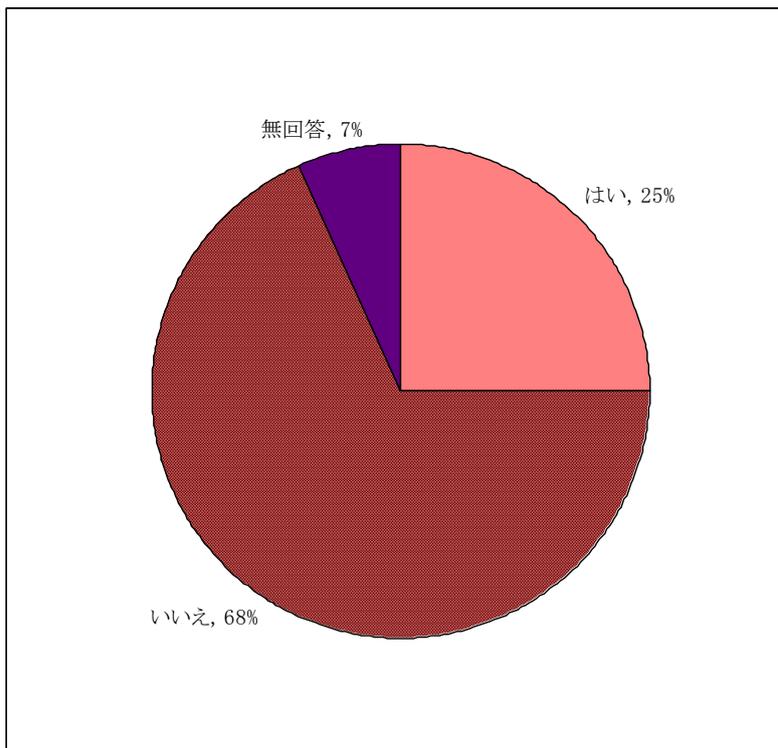
- ①水を混ぜる等して、温度を下げて使うことがある(季節: \_\_\_\_\_、温度: \_\_\_\_\_°Cから\_\_\_\_\_°Cまで下げる)  
 ②熱を捨てず完全に有効利用している                      ③加熱して使用することが多い  
 ④その他 ( \_\_\_\_\_ )

1) 温泉からの配湯の有無

配湯を受けているのは15件であった。

図 11 温泉からの配湯の有無

選択項目	件数	構成比
はい	15	25%
いいえ	41	68%
無回答	4	7%
合計	60	100%



## 2) 温泉湯の利用方法

「水を混ぜる等して温度を下げて利用する」との回答が 73%と最も多く、40～50℃まで下げて使用する場合が最も多い。

図 12 温泉湯の利用方法

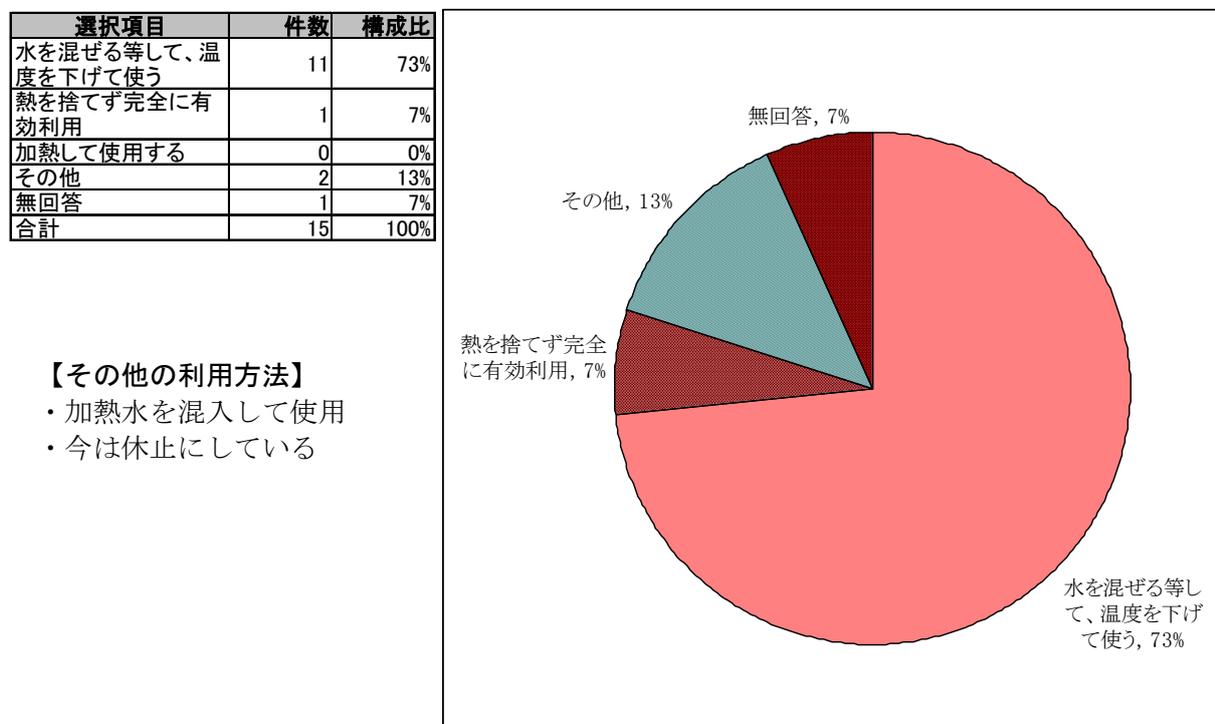


図 13 通年で「水を混ぜる等して、温度を下げて使う」場合の元の温度と使用温度

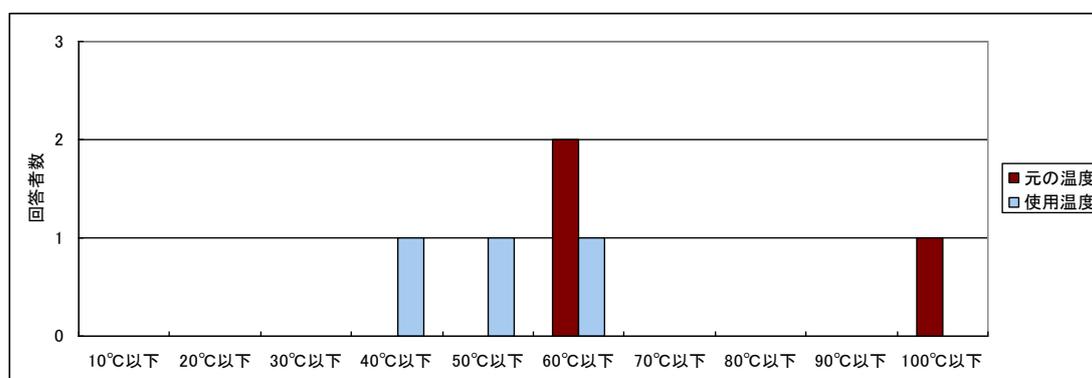
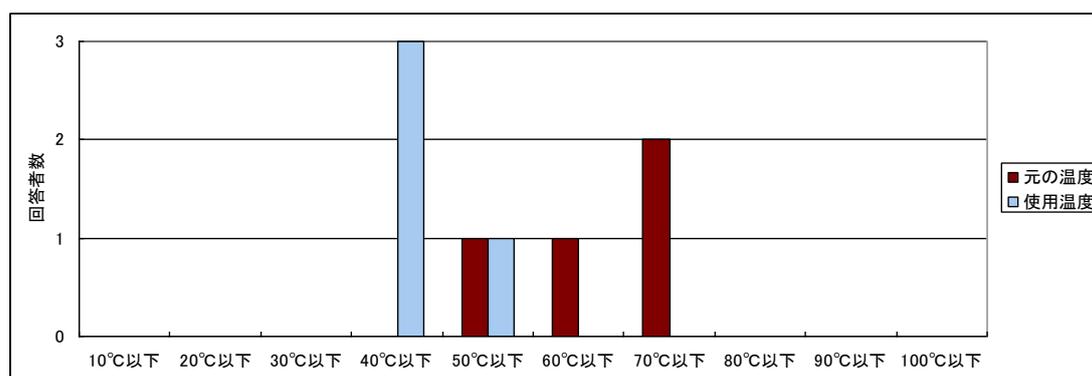


図 14 夏季のみ「水を混ぜる等して、温度を下げて使う」場合の元の温度と使用温度

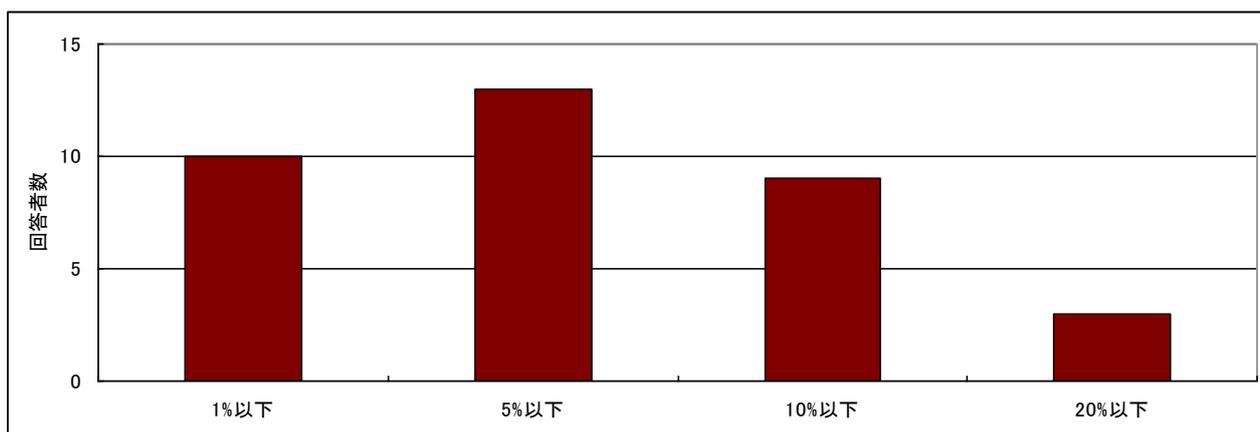


問④. (1) 貴事業所では、光熱費は事業経費の何%程度を占めていますか。数字でお答えください。  
 (2) また、差し支えなければ、光熱費の金額をおおよそで結構ですのご記入ください。

1) 事業経費に占める光熱費の割合

全体では 1%～5%である場合が最も多い。小売業・サービス業・宿泊業の事業所では割合が高い。

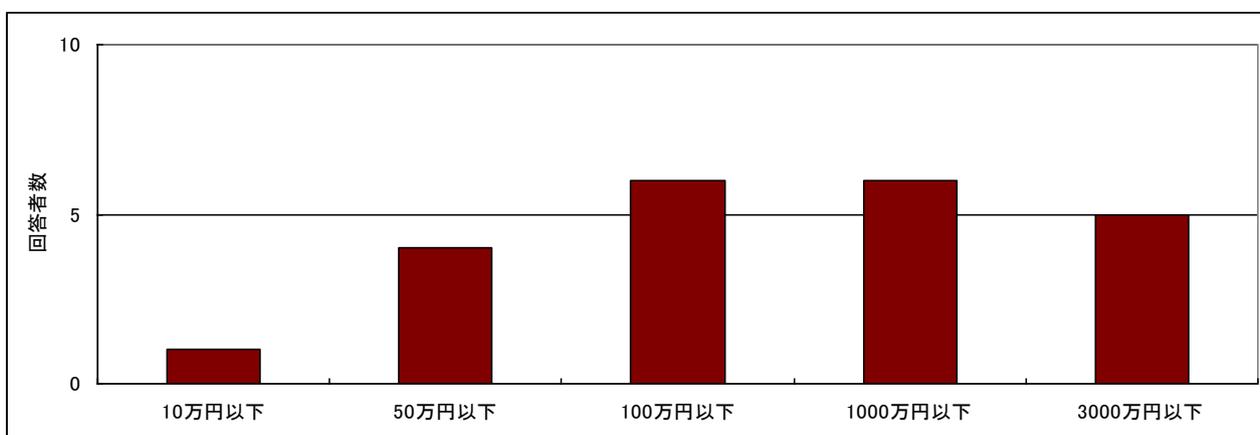
図 15 事業経費に占める光熱費の割合



1) 光熱費の金額

全体では 50 万円～1000 万円である場合が最も多い。小売業・宿泊業では割合が大きく、事業規模の大きな事業所では負担が大きい。

図 16 光熱費の金額

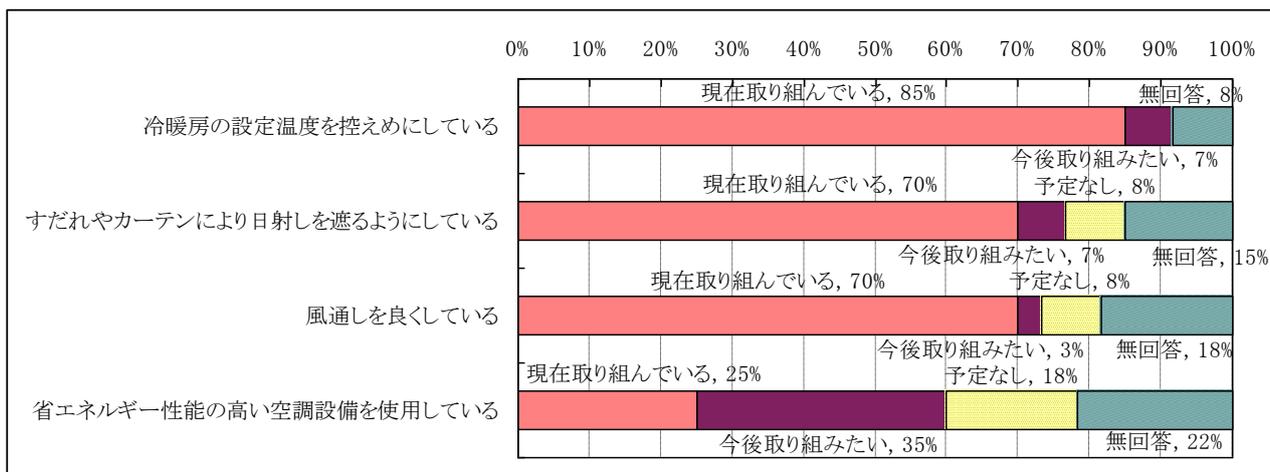


問⑤. 貴事業所での省エネルギーの取組をお聞きします。「現在取り組んでいる」「取り組みたい」「予定なし」からあてはまるものを1つ選び、空欄に○を付けて下さい。

1) 冷房や暖房に関すること

冷暖房の設定温度を控えめにすること、すだれやカーテンにより日射しを遮るようにすること、風通しを良くすることに現在取り組んでいるという回答がそれぞれ85%、70%、70%と多い。省エネルギー性能の高い空調設備を使用することについては、今後取り組みたいという回答が35%と多い。

図 17 冷房や暖房に関すること

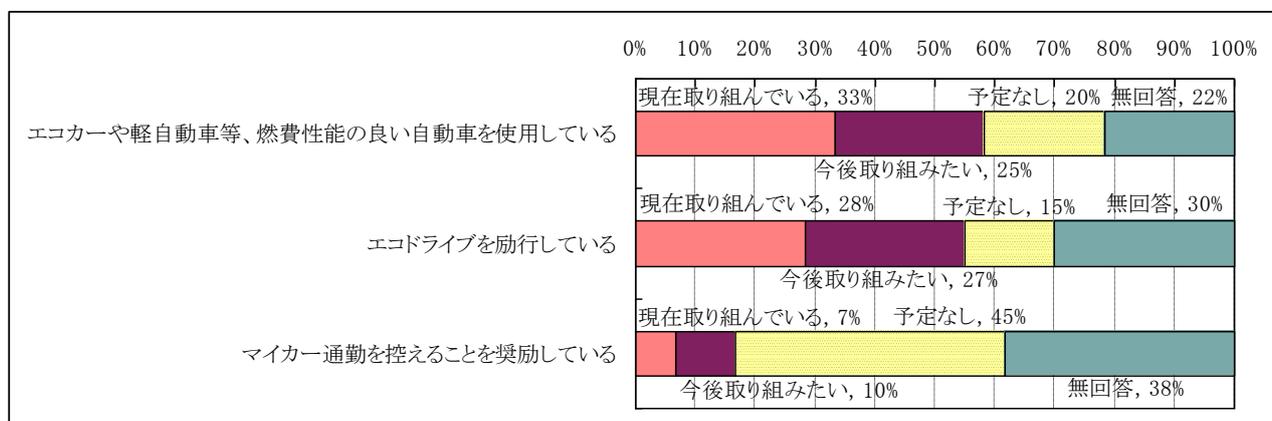


選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
冷暖房の設定温度を控えめにしている	51 85%	4 7%	0 0%	5 8%	60 100%
すだれやカーテンにより日射しを遮るようにしている	42 70%	4 7%	5 8%	9 15%	60 100%
風通しを良くしている	42 70%	2 3%	5 8%	11 18%	60 100%
省エネルギー性能の高い空調設備を使用している	15 25%	21 35%	11 18%	13 22%	60 100%

2) 移動に関すること

エコカーや軽自動車等燃費性能の良い自動車を使用すること、エコドライブを励行することに現在取り組んでいるという回答がそれぞれ 33%、28%と多く、また今後取り組みたいという回答もそれぞれ 25%、27%と多い。

図 18 移動に関すること

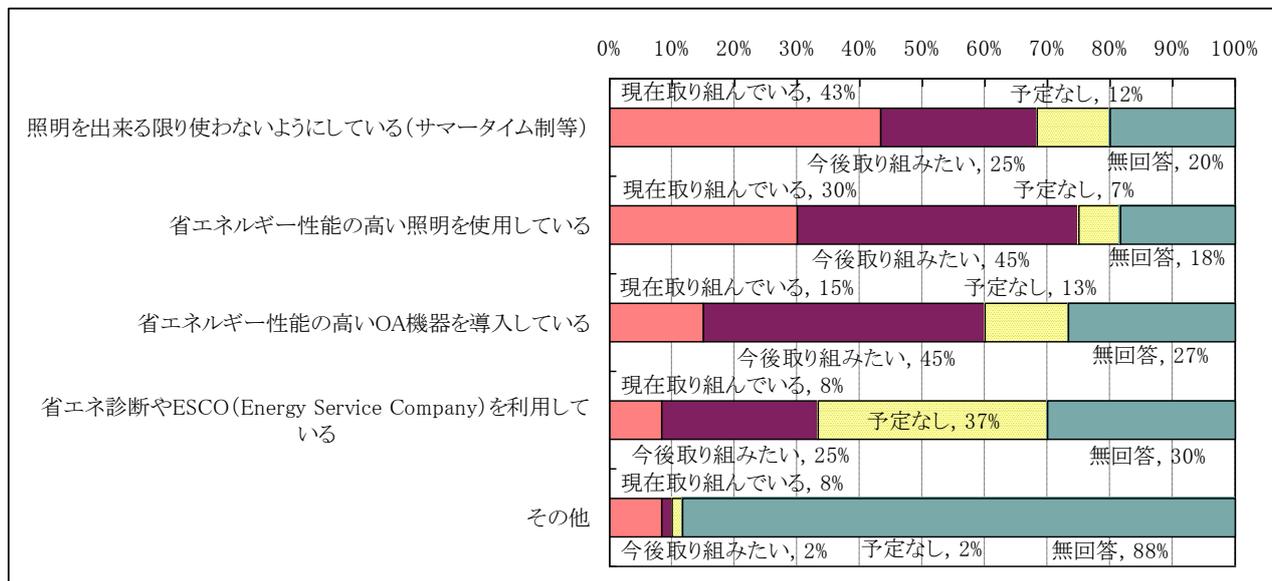


選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
エコカーや軽自動車等、燃費性能の良い自動車を使用している	20	15	12	13	60
	33%	25%	20%	22%	100%
エコドライブを励行している	17	16	9	18	60
	28%	27%	15%	30%	100%
マイカー通勤を控えることを奨励している	4	6	27	23	60
	7%	10%	45%	38%	100%

3) その他の事業活動に関すること

照明を出来る限り使わないようにすること（サマータイム制等）に現在取り組んでいるという回答が43%と多い。また、省エネルギー性能の高い照明を使用すること、省エネルギー性能の高いOA機器を導入することは、今後取り組みたいという回答がそれぞれ45%と多い。

図 19 その他の事業活動に関すること



選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
照明を出来る限り使わないようにしている(サマータイム制等)	26	15	7	12	60
	43%	25%	12%	20%	100%
省エネルギー性能の高い照明を使用している	18	27	4	11	60
	30%	45%	7%	18%	100%
省エネルギー性能の高いOA機器を導入している	9	27	8	16	60
	15%	45%	13%	27%	100%
省エネ診断やESCO(Energy Service Company)を利用している	5	15	22	18	60
	8%	25%	37%	30%	100%
その他	5	1	1	53	60
	8%	2%	2%	88%	100%

【その他の回答】

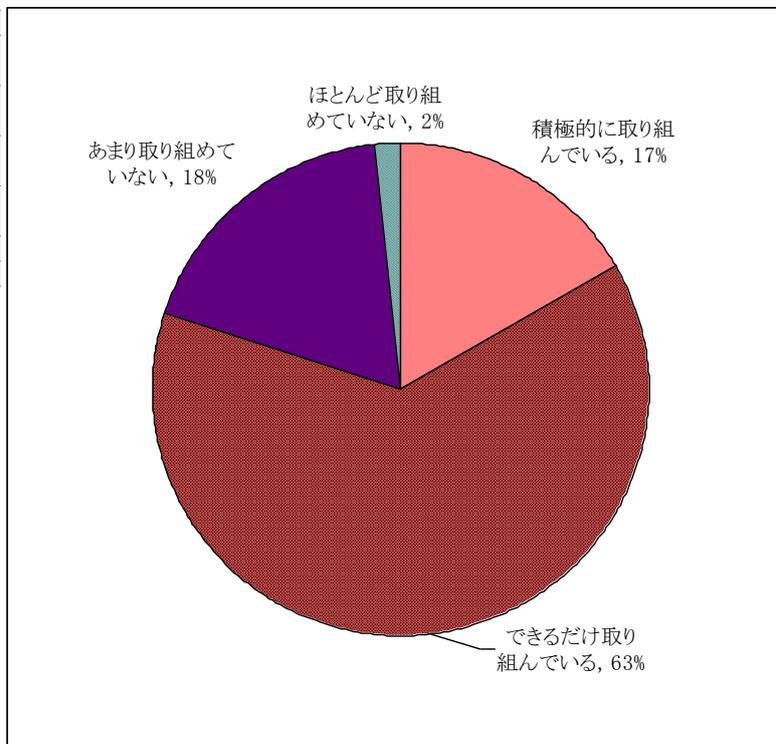
- ・ 冷暖房効率向上の為、複層式ガラスの設置
- ・ 残業時の空調を控えるようにしている
- ・ 照明灯を 1/5 少なくした
- ・ ISO14001 活動
- ・ 省エネ機器の導入
- ・ 水道料金など、洗車用の節約

問⑥. 貴事業所では、省エネルギーの取組等について、どのように評価されていますか。あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けて下さい。

できるだけ取り組んでいるという回答が63%と最も多い。

図 20 省エネルギーの取組への評価

選択項目	件数	構成比
積極的に取り組んでいる	10	17%
できるだけ取り組んでいる	38	63%
あまり取り組めていない	11	18%
ほとんど取り組めていない	1	2%
無回答	0	0%
合計	60	100%

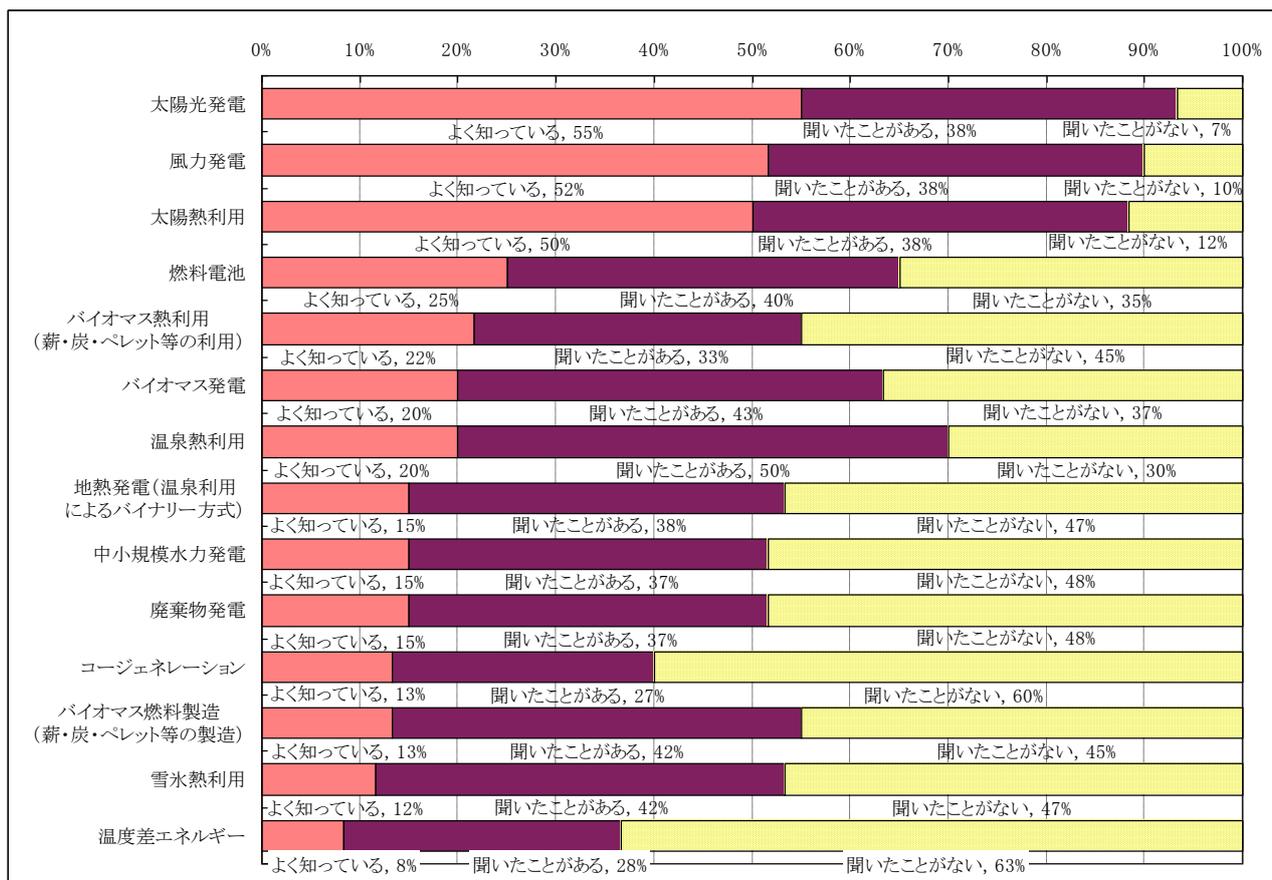


### C. 再生可能エネルギー等について

問⑦-1. 再生可能エネルギー等の種類について、「1）よく知っている」また「2）聞いたことがある」ものについて、あてはまる番号を全て選び、○を付けてください。

認知度の高い再生可能エネルギーでは、太陽光発電、風力発電、太陽熱利用が「よく知っている」という回答が、それぞれ55%、52%、50%と多い。又、温泉熱利用、バイオマス発電について「聞いたことがある」との回答が、それぞれ50%、43%と多かった。

図 21 再生可能エネルギーについての認知



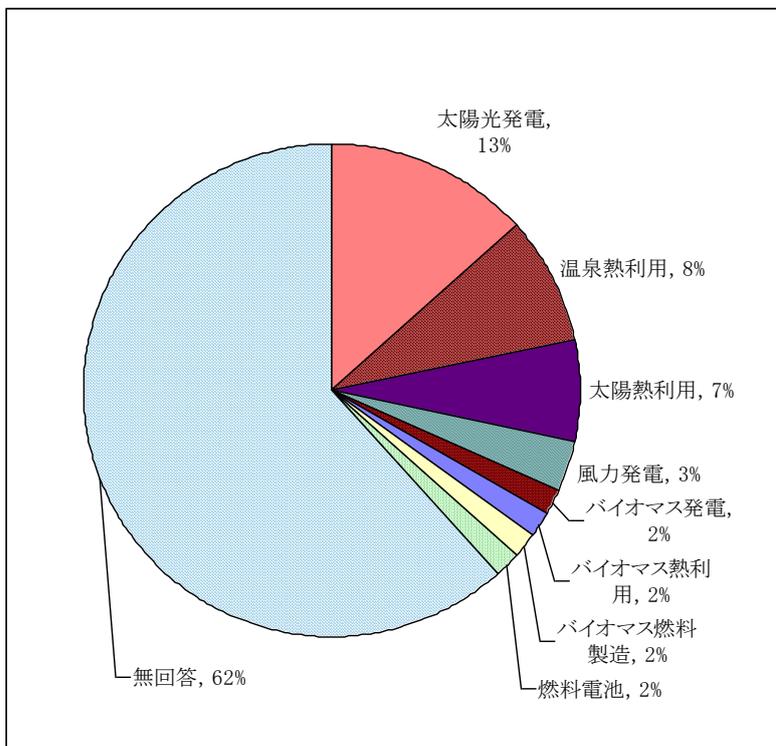
選択項目	よく知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	合計
太陽光発電	33	23	4	60
	55%	38%	7%	100%
風力発電	31	23	6	60
	52%	38%	10%	100%
太陽熱利用	30	23	7	60
	50%	38%	12%	100%
燃料電池	15	24	21	60
	25%	40%	35%	100%
バイオマス熱利用 (薪・炭・ペレット等の利用)	13	20	27	60
	22%	33%	45%	100%
バイオマス発電	12	26	22	60
	20%	43%	37%	100%
温泉熱利用	12	30	18	60
	20%	50%	30%	100%
地熱発電(温泉利用 によるバイナリー方式)	9	23	28	60
	15%	38%	47%	100%
中小規模水力発電	9	22	29	60
	15%	37%	48%	100%
廃棄物発電	9	22	29	60
	15%	37%	48%	100%
コージェネレーション	8	16	36	60
	13%	27%	60%	100%
バイオマス燃料製造 (薪・炭・ペレット等の製造)	8	25	27	60
	13%	42%	45%	100%
雪氷熱利用	7	25	28	60
	12%	42%	47%	100%
温度差エネルギー	5	17	38	60
	8%	28%	63%	100%

問⑦-2. 再生可能エネルギー等の種類について、「3) 最も関心がある」ものについて、あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けてください。

最も関心のある再生可能エネルギーは、「太陽光発電」が13%と最も多く、次いで「温泉熱利用」(8%)、「太陽熱利用」(7%)の順となっている。

図 22 最も関心のある再生可能エネルギー

選択項目	件数	構成比
太陽光発電	8	13%
温泉熱利用	5	8%
太陽熱利用	4	7%
風力発電	2	3%
バイオマス発電	1	2%
バイオマス熱利用	1	2%
バイオマス燃料製造	1	2%
燃料電池	1	2%
雪氷熱利用	0	0%
温度差エネルギー	0	0%
地熱発電	0	0%
中小規模水力発電	0	0%
コージェネレーション	0	0%
廃棄物発電	0	0%
無回答	37	62%
合計	60	100%



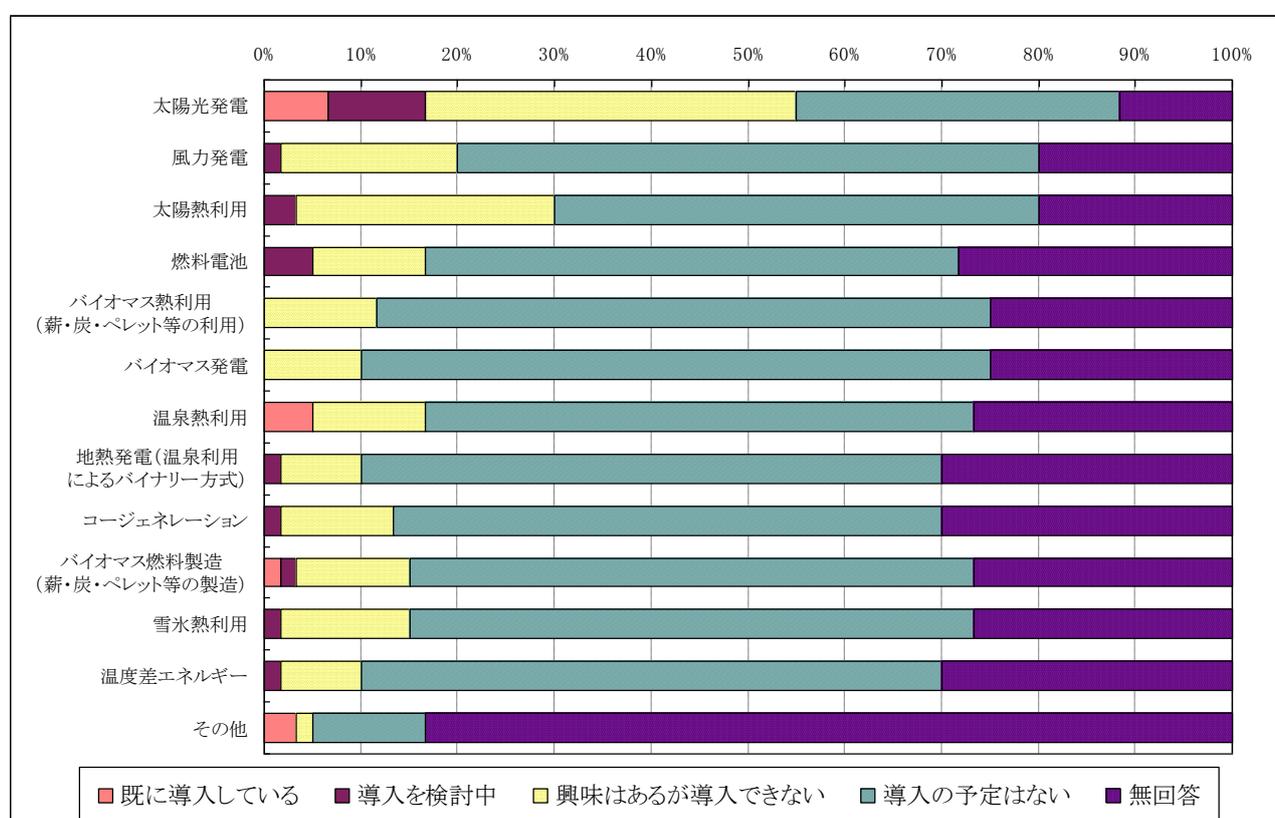
問⑧. 貴事業所では、再生可能エネルギー等や省エネルギーの機器・製品を導入されていますか。あてはまる機器・製品を全て選んで○を付け、導入してからのおおよその年数を記入して下さい。(複数回答可)

既に導入している再生可能エネルギー機器の回答は、太陽光発電（4件）、温泉熱利用（3件）、バイオマス燃料製造（1件）であった。導入を検討中の機器で多いのは太陽光発電、燃料電池、太陽熱利用の順となっている。

興味はあるが導入できない機器では、太陽光発電、太陽熱利用、風力発電が多く、次いで雪氷熱利用が多い。導入の予定が無い機器で多いのがバイオマス発電、バイオマス燃料製造、地熱発電、温度差エネルギーの順となっている。

コージェネレーションは、導入を検討中であるという回答が1件あった。その他、複層ガラスやエコウィルを導入しているという回答もあった。

図 23 再生可能エネルギーの導入状況



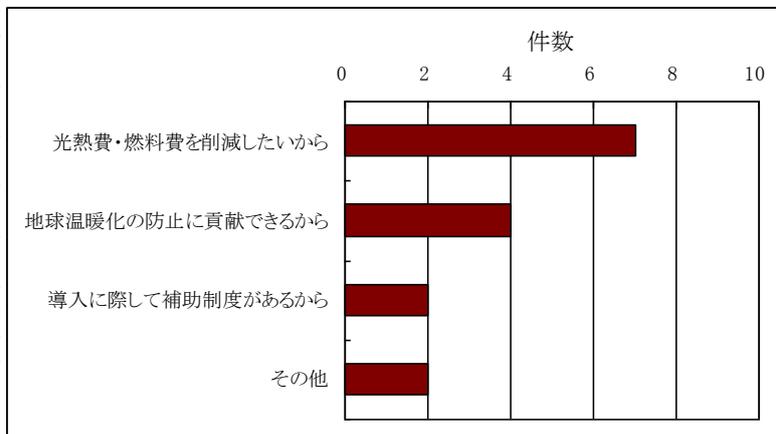
選択項目	既に導入している	導入を検討中	興味はあるが導入できない	導入の予定はない	無回答	合計
太陽光発電	4	6	23	20	7	60
	7%	10%	38%	33%	12%	100%
風力発電	0	1	11	36	12	60
	0%	2%	18%	60%	20%	100%
太陽熱利用	0	2	16	30	12	60
	0%	3%	27%	50%	20%	100%
燃料電池	0	3	7	33	17	60
	0%	5%	12%	55%	28%	100%
バイオマス熱利用 (薪・炭・ペレット等の利用)	0	0	7	38	15	60
	0%	0%	12%	63%	25%	100%
バイオマス発電	0	0	6	39	15	60
	0%	0%	10%	65%	25%	100%
温泉熱利用	3	0	7	34	16	60
	5%	0%	12%	57%	27%	100%
地熱発電(温泉利用 によるバイナリー方式)	0	1	5	36	18	60
	0%	2%	8%	60%	30%	100%
コージェネレーション	0	1	7	34	18	60
	0%	2%	12%	57%	30%	100%
バイオマス燃料製造 (薪・炭・ペレット等の製造)	1	1	7	35	16	60
	2%	2%	12%	58%	27%	100%
雪氷熱利用	0	1	8	35	16	60
	0%	2%	13%	58%	27%	100%
温度差エネルギー	0	1	5	36	18	60
	0%	2%	8%	60%	30%	100%
その他	2	0	1	7	50	60
	3%	0%	2%	12%	83%	100%

問⑨. 問⑧で1つでも「既に導入している」または「導入を検討中」を選択した事業所にお聞きします。再生可能エネルギー等の機器・製品を導入された（または検討されている）最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けてください。

「光熱費・燃料費を削減したいから」という回答が7件と最も多い。

図 24 「既に導入している」または「導入を検討中」である理由

選択項目	件数	構成比
光熱費・燃料費を削減したいから	7	47%
地球温暖化の防止に貢献できるから	4	27%
導入に際して補助制度があるから	2	13%
余剰電力買取制度があるから	0	0%
同業者や周囲に薦められたから	0	0%
興味があったから	0	0%
その他	2	13%
合計	15	100%



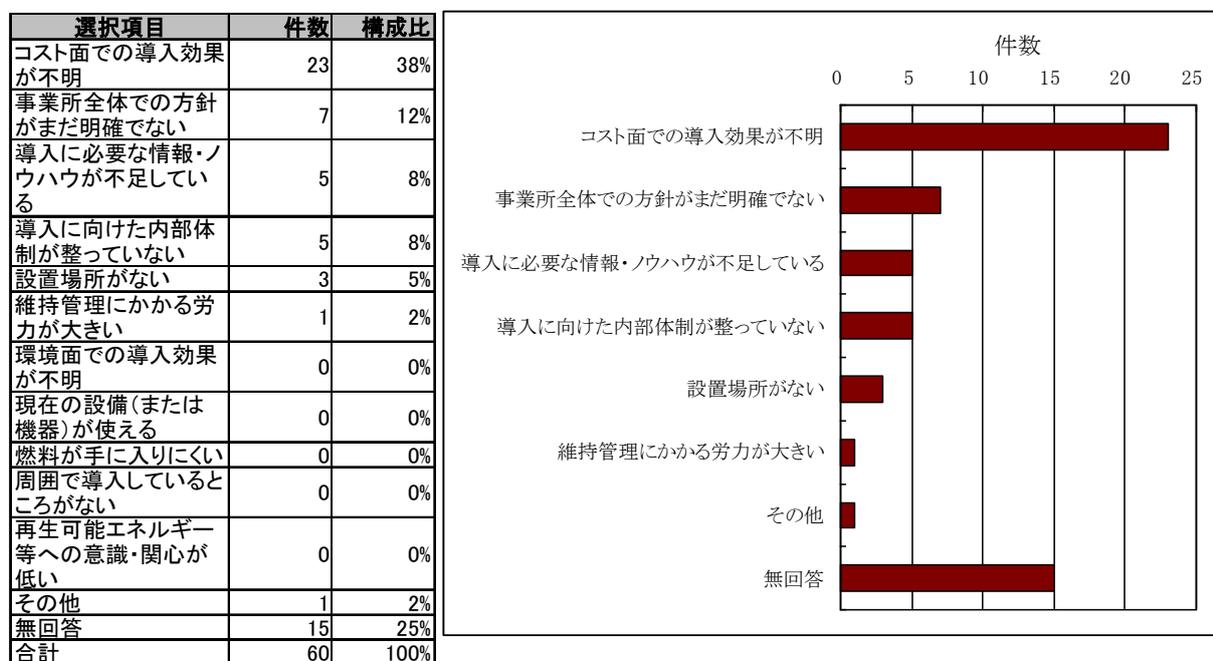
【その他の回答】

- ・ PR
- ・ 販売しているから

問⑩. 問⑧で 1 つでも「興味はあるが導入できない」、または「導入の予定はない」を選択した事業所にお聞きします。導入できない（ご予定のない）最大の理由は何ですか。あてはまる番号を 1 つだけ選び、○を付けてください。

「コスト面での導入効果が不明であるから」という回答が 23 件と最も多い。

図 25 「興味はあるが導入できない」、または「導入の予定はない」である理由



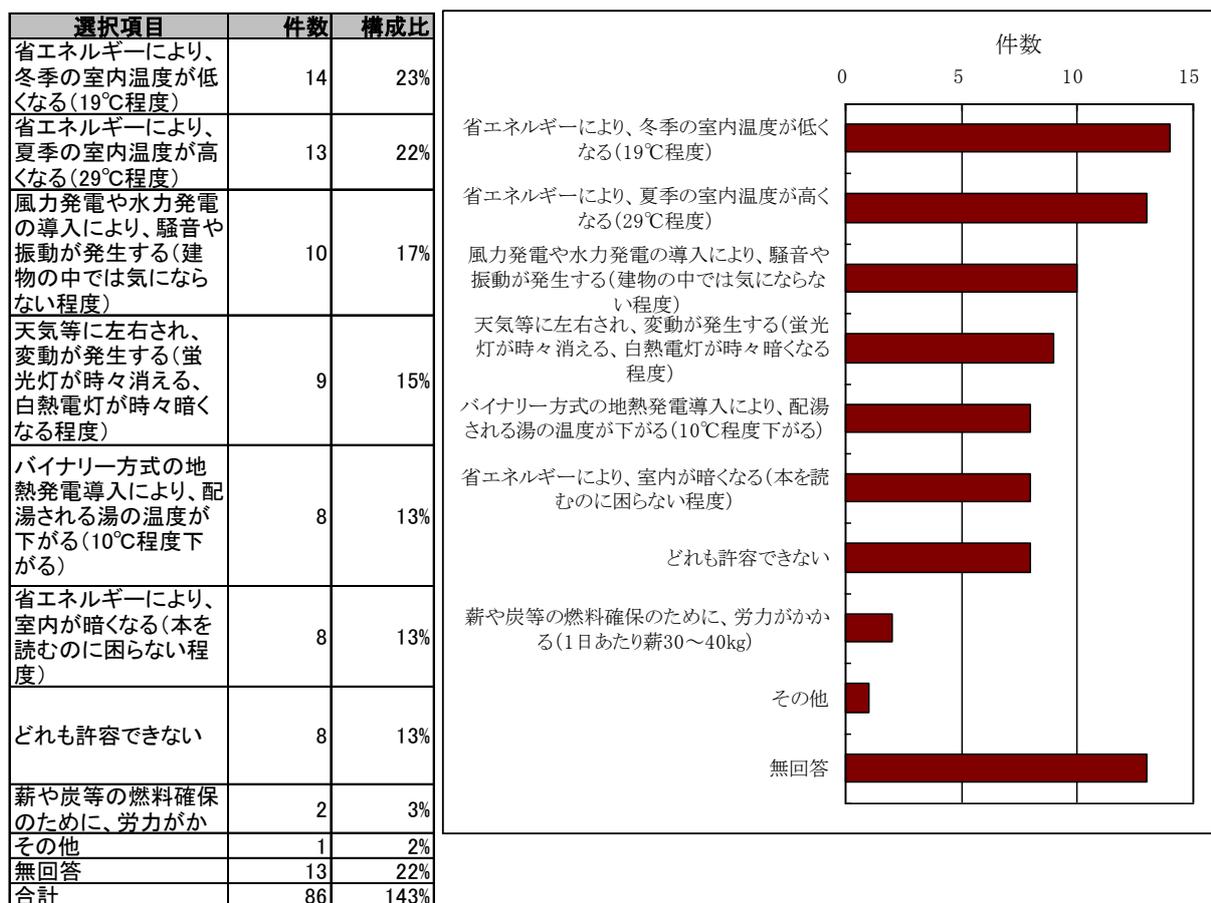
#### 【その他の回答】

- ・ 経営者の方針が出されていない

問⑪. 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて、ある程度の不便がある可能性があります、どの程度なら許容できますか。あてはまるものに2つまで○を付けて下さい。

省エネルギーにより冬季の室内温度が低くなる、また夏季の室内温度が高くなることに関しては許容されやすいことが窺えた。薪や炭等の燃料確保のために労力がかかることは許容されにくいことが窺えた。

図 26 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて許容できる不便



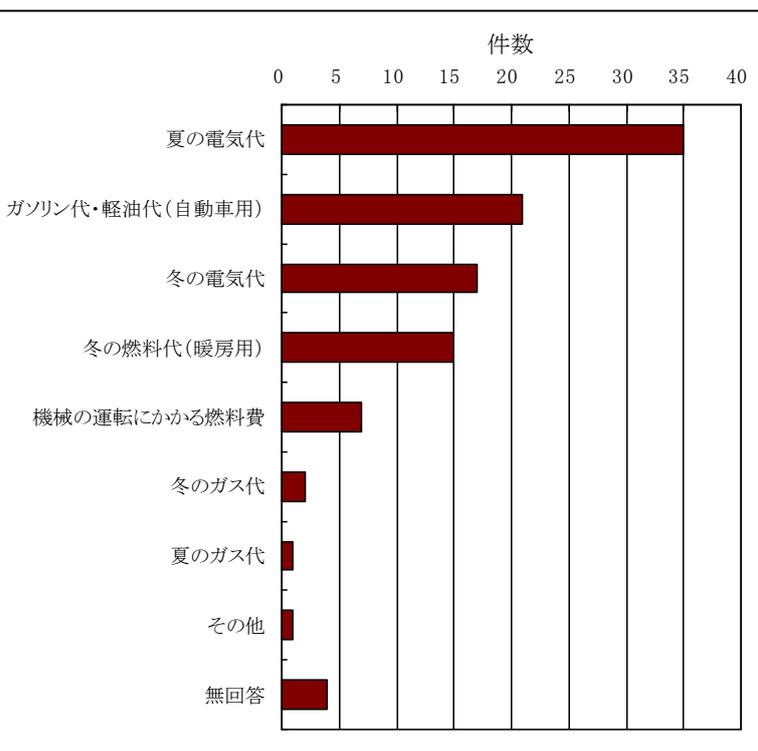
### D. 経済的負担について

問⑫. 光熱費の中で何を減らしたいと考えますか。あてはまるものに2つまで○印をつけてください。

夏の電気代を減らしたいという回答が 35 件と最も多く、次いで自動車のガソリン代・軽油代の順となった。ガス代については減らしたいという回答が少なかった。

図 27 光熱費の中で減らしたい項目

選択項目	件数	構成比
夏の電気代	35	58%
ガソリン代・軽油代 (自動車用)	21	35%
冬の電気代	17	28%
冬の燃料代(暖房用)	15	25%
機械の運転にかかる 燃料費	7	12%
冬の間ガス代	2	3%
夏のガス代	1	2%
温泉の配湯料	0	0%
その他	1	2%
無回答	4	7%
合計	103	172%



【「冬の燃料」の種類】

- ・ 灯油 6
- ・ 重油 1

【「機械の運転にかかる燃料」の種類】

- ・ 灯油 3
- ・ 軽油 1
- ・ 農機具の燃料 1

【その他の回答】

- ・ 年間の電気代 1

問⑬. 環境にやさしい社会をつくる上では、環境税などの形で経済的負担が求められる可能性があると言われてしています。貴事業所はどの程度なら経済的負担が増えてもよいと考えますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

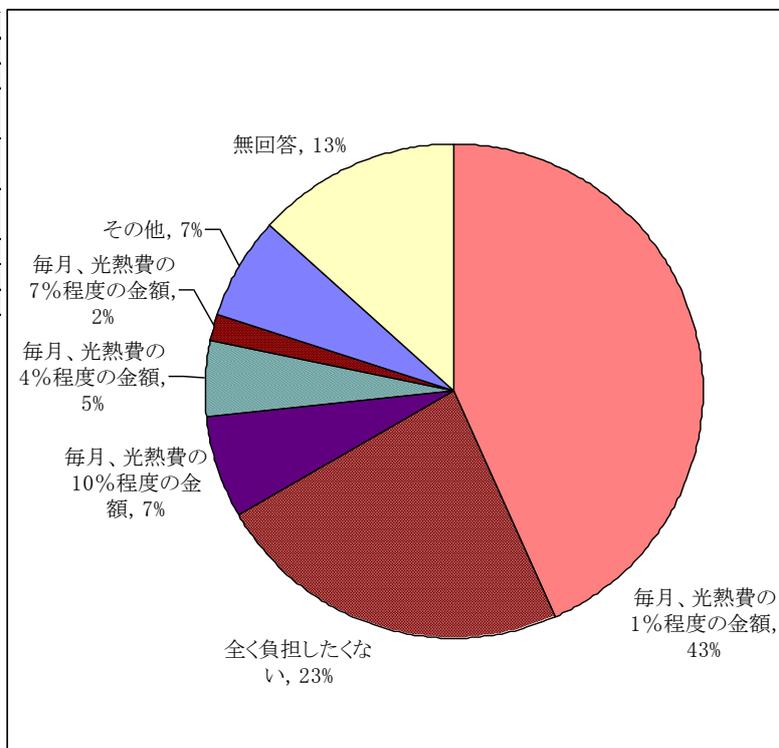
毎月、光熱費の1%程度なら負担してもよいという回答が43%と最も多い。

図 28 環境のために増えてもよい経済的負担

選択項目	件数	構成比
毎月、光熱費の1%程度	26	43%
全く負担したくない	14	23%
毎月、光熱費の10%程度の金額	4	7%
毎月、光熱費の4%程度の金額	3	5%
毎月、光熱費の7%程度の金額	1	2%
その他	4	7%
無回答	8	13%
合計	60	100%

【その他の回答】

- ・ 税率の課税根拠を論ずる事が先だと思ふ
- ・ 税のあり方を基本的に考えてほしい
- ・ 利益があれば 5%ぐらいはよいのではないか
- ・ 条件と設備による

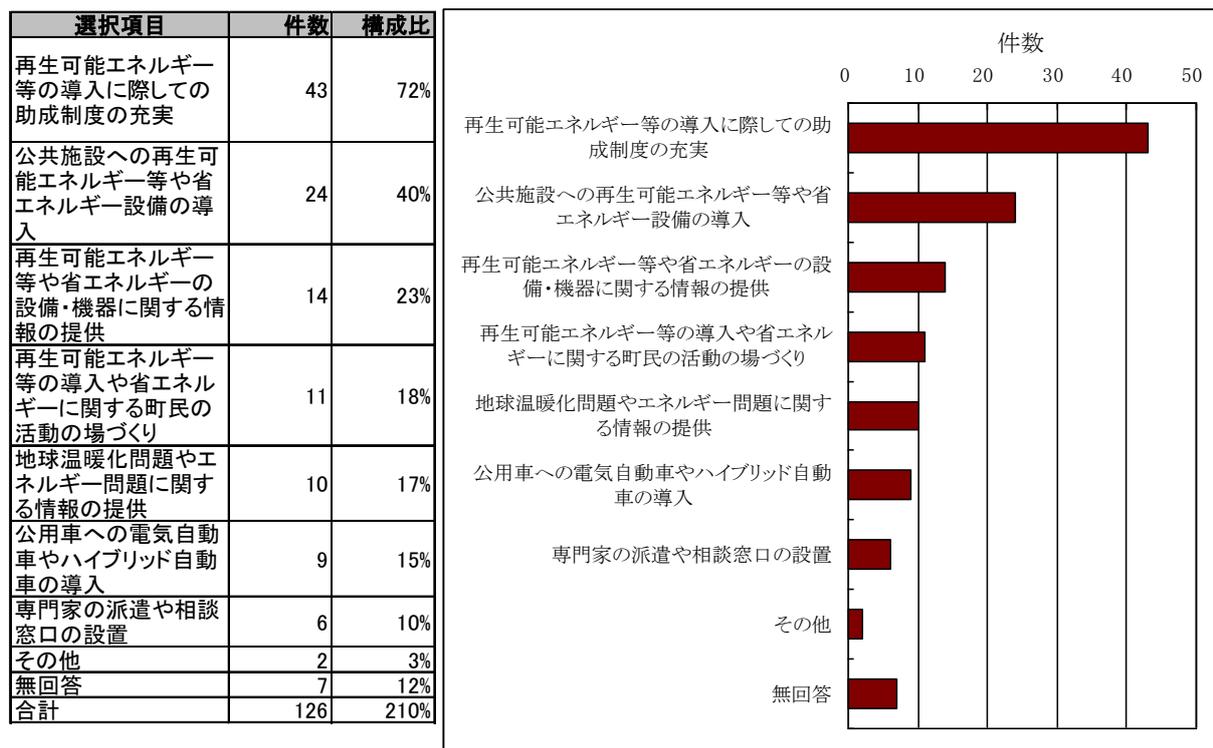


E. 新温泉町の今後の取組について

問⑭. 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて、町としてどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものに3つまで○を付けて下さい。

町の施策としては、「再生可能エネルギー等の導入に際しての助成制度の充実に力を入れるべき」という回答が43件と最も多い。次いで「公共施設への設備の導入」(24件)、「設備・機器に関する情報の提供」(14件)の順となっている。

図 29 町として力を入れていくべき施策



【その他の回答】

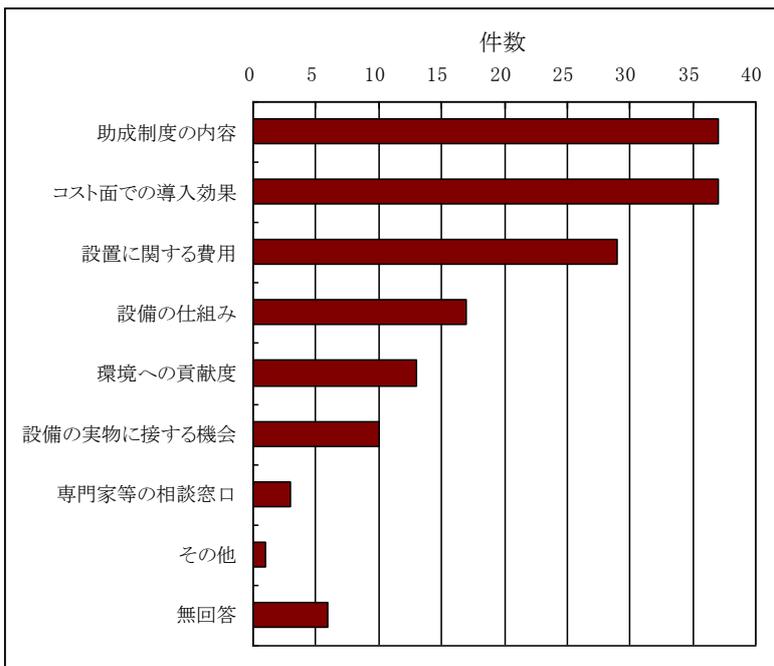
- ・消費電力 1/10 以下の GHP の導入。省エネ、節電対策のキーは空調対策
- ・ゴミの再利用

問⑮. 再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する場合に、どのような情報が欲しいと思いますか。(既に導入されている事業所は、“どのような情報が充実していると便利か”という観点からお答えください) あてはまるものに3つまで○を付けて下さい。

ほしい情報としては、「助成制度の内容」(37件)や、「コスト面での導入効果」(37件)という回答が最も多い。

図 30 再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する際に欲しい情報

選択項目	件数	構成比
助成制度の内容	37	62%
コスト面での導入効果	37	62%
設置に関する費用	29	48%
設備の仕組み	17	28%
環境への貢献度	13	22%
設備の実物に接する機会	10	17%
専門家等の相談窓口	3	5%
その他	1	2%
無回答	6	10%
合計	153	255%



【その他の回答】

- ・費用対効果（維持費含める）

問⑩. 企業では、企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）に関する取り組みとして、再生可能エネルギー分野など環境に関する活動に取り組む例が増えています。貴事業所は、今後、新温泉町におけるまちづくりのために、どのような関わり方をしたいと思われませんか。あてはまるものに2つまで○印をつけてください。

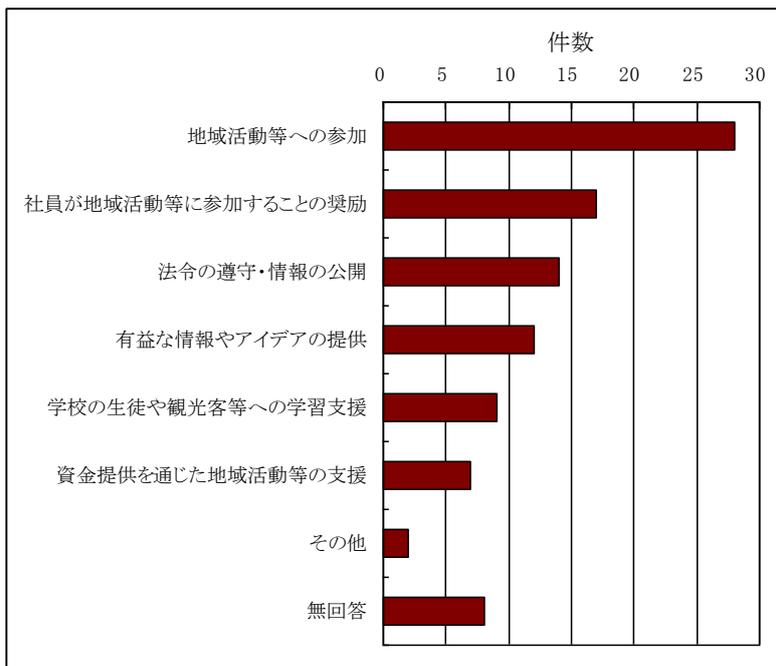
企業の取り組みとしては、「地域活動に参加することでまちづくりに参加したい」という回答が28件と最も多い。

図 31 再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する際に欲しい情報

選択項目	件数	構成比
地域活動等への参加	28	47%
社員が地域活動等に参加することの奨励	17	28%
法令の遵守・情報の公開	14	23%
有益な情報やアイデアの提供	12	20%
学校の生徒や観光客等への学習支援	9	15%
資金提供を通じた地域活動等の支援	7	12%
その他	2	3%
無回答	8	13%
合計	97	162%

【その他の回答】

- ・ごみの資源化



## F. 自由意見

問⑰. 再生可能エネルギー等導入や省エネルギーに関する取組に関してご意見・ご要望、又はアイデアなどがありましたら、ご自由にお書きください。

## 【回答内容】

- ・行政でもっと身近な里山を有効に活用する仕掛けづくりをしてはどうか？（宝の山が眠っている。）
- ・水路の水を利用した水力発電に力を入れるべき（水田用）だと思います。小規模で数を増やすことで地域や個人が協力しやすい方法を考えてほしいと思います。
- ・設備投資だけをするのではなく、まず企業が自らの活動を把握し、どれだけの環境負荷があるかを認識し、無駄を削減するかが重要。資金で解決するだけでは意味があまり生まれません。
- ・あらゆる企業、各家庭でそれぞれすべてのエネルギーの節約が重視されると思う。無駄なエネルギーは使わない事。
- ・当町賦存の資源の活用は急務である。国の事業メニュー等よく情報を集めて温泉熱利用の活用対策のため、調査研究が急がれる。全国の熱源活用で温度 70℃以上あればタービンを通過し、電気が供給される技術開発も進んでいる様だ。新温泉町の特性を生かした環境にやさしいエネルギーの創出を図ることが求められていると思う。企業が新エネを導入する際の利子補給制度も創設すべき。
- ・海はもちろん、海が見える高台に風力発電考えてみてはどうだろうか。浜風の利用法あればと思う。
- ・岸田川の上流に水力発電所をもう一基出来ないか？各学校、役場の屋上にソーラーを設置出来ないか？焼却場の廃熱を利用して発電が出来ないか？太陽光発電の補助金を町は検討してほしい。温泉熱発電を考えたらどうか？
- ・形式的なアンケートにしないで下さい。目的（結果）を達成する為の具体的な企画や実践計画を立てて、ただの仕事（作業）上の取り組みにしないで欲しい。職場もさる事ながら各家庭での取り組みも企画して、街全体で全員が地球環境に関心を示し実践している町づくりにして下さい。まず公共機関から、公務に携わる人からはじめましょう。
- ・時差出勤、OA 各照明機器、エアコン設備の節電、エコドライブの実施等の節電に心がける。
- ・太陽光と雪の関係について、地域の特性をもっと研究してほしい
- ・湯村温泉は、高温で豊富な湯量があるがホテル、旅館、区内の配湯しか活かされていない。温泉熱発電とか温泉熱利用、栽培、もしくは養殖等考えられないか。先日の新聞に牛革のなめしに湯村の温泉を利用したとか。以前には、豆腐を作るのに使っていたこともあったようだが、当地外の人々の為、ストップがかかったと思う。せっかくある豊富な湯量を利用して、特産品が出来ないか。又、荒湯でゆでるだけでなく、ゆげで蒸すような設備は出来ないか。